

## 恐竜の足跡追跡記

2018年3月20日

私の青年海外協力隊時代1980年ごろは、モロッコのマラケシュで三葉虫、アンモナイトなどの化石の入った石のテーブルが売られていた。アトラス山脈の東、エルフードのあたりで産出されている。モロッコはアフリカ大陸でも、海が隆起してできたので化石が豊富に出る。これとは別にアトラス山脈には恐竜の化石が随分ある。ジュラ紀の中頃に様々な恐竜が、当時は平原や湖だったところにいたようだ。そしてアトラス山脈付近にあった湖の周辺部が一時的に干上がり、泥が乾いたところを恐竜が歩いた跡とか、竜脚類が水中移動で残した足跡がこの地層から見つかっている。その後造山活動で、アトラス山脈が出来上がり、褶曲した地層の露出部分にこの足跡が残されていた。この足跡調査に私のすぐ後の隊員、石垣忍さんがエネルギー鉱山省で博物館を作る要請でやってきたが、結局、地質調査の経験を生かして恐竜の足跡調査をして、その後のモロッコ恐竜足跡の基礎を築いた。彼は帰国後、高校に復職したが、どうしても恐竜が忘れられず、退職してモンゴルで恐竜の化石を調査して、今は岡山理科大で恐竜などの古生物学研究室にいる。その彼が調査した恐竜の足跡が、今どうなっているのか、まず見てみたいと思い、マラケッシュの東、100 kmの所にあるドゥムナットに、モロッコの友人家族と出かけた。



彼が調査をした1985年ごろは、イウリアデンに入るまでの道は整備されていない泥んこ道になっていたが、今は舗装されてマラケッシュから2時間で到着した。何も情報がない中で、とにかくラバトで買った10万図をもって、石垣さんが調査起点にしたタグバトゥート村に向かった。途中でドゥムナットの街を通った。ここは山間に作られており、昔アトラス山脈を超えてサハラ砂漠と交易をする中継点として、ユダヤ人が多く住んでいた。今は、静かな街のたたずまい。峠を越える道からは、3600mある台形上のラット山が雪をかぶっている姿が見えた。

村へ行く道の途中でモロッコの旗を立てている人たちがいるので、そちらを見るとフランス語でTraces des Dinosaure (恐竜の足跡)という碑があった。“ここだ”ということで、石垣で囲まれたところに入っていくと、そこが保護地として足跡が残されている所だった。早速、地元の人が案内をしてくれた。そこには地層が何段か出ていたが、その地層ごとに現れる恐竜の足跡は、違っていた。しかし、露出地で、砂が足跡にたまっているので、刷毛で払わないと形がはっきりしないところもある。

恐竜の足跡という世界で珍しく、しかも大都会のマラケッシュから2時間で来られる所にあるので、施設を作り管理をして宣伝をすれば、立派な観光資源となるところだが、それをしないところが、モロコらしい。



標高1000mの山間にあるドゥムナットの街



雲の上に顔を出したラット山(3600m)



この保護地にあったのは、肉食の比較的大型のカルノサウルス類の足跡と鳥類の祖先にもなったシールロサウルスの足跡で、ここから少し離れた保護地以外の場所に大きい足跡もあった。説明も何もないので、インターネットで調べないという恐竜の足跡かわからない。また、この地域には、プロントサウルスなどの竜脚類の非常に大きな恐竜の足跡もあるが、どこにあるかわからない。残念だったが、またよく調べてくることにした。

Traces des Dinosaur et 書かれた碑と案内人



石垣で保護されている恐竜の足跡



カルノサウルス類の足跡



シールロサウルス類の足跡

1億6500万年前のジュラ紀の時代にここが平地で湖があり、恐竜が歩いていたことを想像すると、本当に面白い。その時代は、どこに大陸があって、どう恐竜が移動したのか。それから後、造山活動で平原は折り曲げられ、雨風で浸食されてアトラス山脈が出来上がった。この足跡の地層は、今は地中に潜ったり、浸食される前に繋がっていた地層がどこかにあったりと、足跡をたどれば当時のことがわかるだろうが、そこまではできないので、想像するしかない。